



# 地域支援センター「みみらんど・郡山」

令和元年度 第4回きこえとことばの基本研修会



テーマ「聴覚障がいのある幼児・児童・生徒の発音指導の実際」

講師 小西真由美教諭・石垣太郎教諭

### 発音指導を行うと・・・

- ・表出が円滑になり、**読話の力の向上にもなる**
- ・音韻意識が育ち、**読み書きの力につながる**
- ・**声を出す心地よさや楽しさを実感できる**

### 発音に必要なもの

- ・**息**・・・発音で使う息は細く長く  
例：風船、紙風船、シャボン玉、ティッシュ(紙テープ)吹き
- ・**声**・・・喉に力が入らない、明るい声  
例：くすぐり遊びなどで明るい笑い声が出たときに称賛する
- ・**顎、唇、舌の動き**  
例：食事の際に意識させたり、発音指導前などに、顎、唇、舌の運動を行なったりする



母音はすべての音の土台！

### <発音指導を行うにあたって>

- (1)聴覚を最大限に活用する
    - ①補聴器の調整と管理
    - ②環境への配慮
    - ③音の敏感さを増す環境づくり
  - (2)他の感覚(視覚、触覚、味覚、筋肉運動感覚)と併用する
    - ・ことばの指示と結びつける ・「快」の体験を心がける
    - ・フィードバックの手がかりを多く持たせる
  - (3)指導場面・事前準備
    - ・鏡に前に並んで座る ・15分程度で行うと効果的
- ★子どもの発達に配慮し、無理強いはいしない  
★単音から単語、文、会話中の発音の定着まで行う

### おいしくたのしく「母音」の学習！

- あ「a」・・・バームロール  
・大きく開けすぎない(縦よりも横に)
- お「o」・・・ポテコ  
・唇は丸めるが突き出さない
- う「u」・・・小粒ポテコ、ポッキー  
・顎は閉じて、唇をかるくしぼる
- え「e」・・・タマゴボーロ  
・ボーロを舌において、軽く圧をかける
- い「i」・・・いかのくんせい(平らなもの)  
・口角を横に、歯は噛み合わせない

### 定着に向けて・・・

発音指導時に、その音を出すための手がかり(サイン等)を作っておく  
→会話で誤音がある際、その手がかりを使って発音要領を思い出せるように！

☆「さ」行が「た」行の発音に置換してしまうケース

② ん？

① てんてい、たようなら。  
みなたん、たようなら。

③ (さ) もう一回、言ってくれる？

⑤ せんせい、さようなら。  
みなさん、さようなら。

⑥ はい、さようなら。

<参加者の感想> 子どもと楽しく取り組み  
めそうな教材や指導方法を学ぶことが  
できた。また、日常の会話においても、子ども  
一人一人に応じた、こまやかな指導を心  
がけたいと思った。

日本語を身に付けるためには  
**早期からの教育や療育が  
大切です。**  
詳しくは、本校地域  
支援センターをご活用  
ください。

